

# BAG

## 便利機能が満載の頼れる訪問バッグ

利用者さんのお宅や関連施設の訪問など、さまざまなシーンに活躍する充実機能の2WAYバッグ。  
書類や着替え、タオル類などたくさんの荷物が入る大容量ながら、見た目はすっきりスマートなデザインです。

**1**  
ユーザーボイス

自転車のかごにすっぽり入って便利。

**2**  
ユーザーボイス

A4ファイルが取り出しやすい横長に開くバッグ口。

**3**  
ユーザーボイス

携帯型の血圧計などかさばる小物が収まりやすいポケット。  
(W140×H190×D30mm)

**4**  
ユーザーボイス

23L入る大容量に加え、中ものわかりやすい明るいインナー色。

**Black**  
AKB1000-01 (黒チェック)

ユーザーボイス  
物を入れたときに膨らむ底まち付きポケット。

**Navy**  
AKB2000-09 (紺)

**5**  
ユーザーボイス

スピッツホルダーも収まるファスナー付ポケット(スピッツホルダーは別売です。)

スピッツホルダー  
SPH3000-06 (ラベンダー)  
¥1,200(税別)  
●素材/ポリエステル  
●サイズ/ヨコ幅12cm タテ幅17cm

**移動時に便利なりゅック仕様。**

現場の声をカタチに。“エーストレーディング”とのコラボで実現。

今後ますます需要が高まる地域医療において、バッグは非常に重要な役割を果たすもの。専門性の高い、プロのニーズに応えられるものが必要であると考えました。そこで、エーストレーディングとのコラボレーションにより、ニーズに特化したバッグを開発。地域医療に関わる方々からのヒアリングをもとに試作と改良を行い、専用バッグを誕生させました。細部まで工夫を重ね、使いやすさにこだわり、移動から作業までスムーズにサポート。現場の声から生まれたバッグが、プロの仕事を支えます。

ACE Trading × MONTBLANC

プロに学ぶ。

「全ての人に家に帰る選択肢を」掲げ、在宅ケアの普及をめざす

## ウィル訪問看護ステーション江戸川



団塊の世代が75歳以上に達する2025年に向けて、訪問看護師の需要が高まっています。しかし訪問看護師は、全就業看護師のうちわずか3%程度というデータもあります。そこで2016年4月に設立された「ウィル訪問看護ステーション江戸川」に伺い、所長の岩本大希さんに訪問看護の現状とこれからの未来についてお聞きしました。

### 「訪問看護は素晴らしい仕事。だからもっと、憧れられる存在に。」

在宅ケアへの需要と注目が集まっていますが、訪問看護師の不足も聞かれます。そこには、どんな理由があるのでしょうか？

訪問看護師の平均年齢は48歳で、看護師全体の平均年齢は38歳。ベテランの看護師が、訪問看護を行っている状況です。一人で患者さんの自宅に伺う訪問看護は、経験豊富でないとできないというイメージが強いです。

◎実際はどうなのでしょう？  
訪問看護の経験のある方は「若いうちからやっておくとい」と言いますし、私自身もそう思います。教育するノウハウがあれば、若手の看護師でも活躍することは可能です。

◎ウィル訪問看護ステーション江戸川のみなさんはお若いんですね。  
平均年齢が29歳なので、訪問看護師全体の平均よりもまだ若いんですね。女性より男性のほうが多いのも珍しいかもしれません。前職で訪問看護ステーションの立ち上げを経験し、若手の教育に携わったノウハウをここで実践していきたいと思っています。

◎ユニフォームや持ち物にも、こだわっておられるとお聞きしました。  
訪問看護師は街中を移動するので、さまざまな人に見られる機会が多くなります。そのときに、「あ、訪問看護師ってカッコいいな」と感じてもらえたら、もっとなりたい人が増えるんじゃないかと思っています。



家に帰る選択肢を広め、自宅で自分らしく生活したい。全ての人を支えたい。

ウィル訪問看護ステーション江戸川  
所長 岩本大希さん  
慶応義塾大学看護医療学部卒業、北里大学病院救命救急センターを経て、訪問看護師へ。前職で、24時間365日の訪問看護ステーションを立ち上げ、運営・管理を主にがん末期・神経難病・認知症独居の方などを中心に看護を行い、ご自宅での看取りは年間40名以上。ご自宅で暮らせる、帰れる可能性のある人を支える在宅ケアを、もっともっと広めたいとの思いから初心に戻って独立。

施設内で着用するものとは求める機能が違いますから、訪問看護用のアイテムがもっと増えるといいですね。今はけっこうアウトドア用のアイテムを使ったりしています。誇りを持って仕事をするためにも、着るものや持つもののクオリティは大切にしていきたいと思っています。

おっしゃるように、訪問看護師に特化したものはまだまだ少ないですね。私たちもこれから商品開発を通じて、訪問看護師の方々が輝いてお仕事できるように、お手伝いできればと思います。貴重なご意見をありがとうございます。



「家に帰りたい」「家で暮らしたい」そんな、お子さんやご家族を支えたい。

看護師 澤柳 匠さん

**訪問バッグを、モニターしていただきました！**

実際の使い心地は？便利な機能は？在宅ケアのために開発したバッグを、ウィル訪問看護ステーションのみなさんに実際に使っていただきました！

2WAY仕様のため、使い方は自由自在。こちらのステーションでも、自転車の前かごにすっぽり入れて使っておられる女性看護師さんがいる一方で、リュックスタイルで使用する男性看護師も。スポーツタイプの自転車愛用する澤柳さんは、リュックスタイルで使用。「聴診器や血圧計など医療用品を収納したポーチ、タオル、タブレットなどけっこう荷物が多いのですが、とにかく大容量でたっぷり入ります。軽いので、たくさん入れても持ちやすいですね。あと書類関係もけっこう持ち歩きのですが、A4ファイルがすっきり収まり、さっと取り出せるのも気に入りました。」

ウィル訪問看護ステーション江戸川  
東京都江戸川区中央4-11-8  
TEL.03-5678-6522  
FAX.03-5678-6577  
<http://www.wyl.co.jp>

訪問看護事業：看取り、がん、難病、生保、認知症独居、小児など困難なケースを中心にする在宅ケア(24時間対応)